編 飯山市農業委員会 传飯山市農業委員会長 伊澤春一

農業委員会による農地パトロー

ルを実施します(8月~11月)

麦栽培の勉強を目的とする研修視察を実施しました

心と思

る農地の有効利用を図るた として設定し、 [実施内容] -ルに取り組みます。 農業委員会系統組織 の重要な生産基盤である料の安定供給を図る 「農地パトロー 11月を全国統 農地パトロ

のご理解、 して調査し の利用状況の確認等 農業委員会が地域を巡回 の早期発見、 た、ご協力をお願い品しますので、皆様 仮登記農地

地元の農業委員や

の農業委員会事務局へご相

できなくなった場合には、

許可後の履行状況、 遊休農地の把握、

違反転

の方で、

自分や家族で耕作

しまいます。

農地をお持ち

農地転用

たトラブルの原因になって近隣住民に迷惑をかけ、ま投棄を誘発し、周辺農地や投棄を誘発し、周辺農地や

温地は温いるです 農地を耕作し 修しましょう

> 部同が必要です 原地を感覚するには

雑木や雑草が生いで放置

るには許可が必要です

農地を農地以外に利用す

対策で、

春先の水溜りで

問題点は、

つめに排水

麺用のユメセイキです

水の良い耕作放棄地を選定

農業委員会では、

し9月に種まきを実施した



農業委員による現地パトロール

原状回答 となります

中野市古川地籍

長野県農業試験場 作物部育種部(須坂市)

ヘクター

ルほどの麦を作

けしており、

小麦の品種は

野市上今井古川

融雪水の排除が大切だそう

の対策と

湿害回避と

一今井古川地籍で17月年生営農組合は中

なりました。

利用できることから、 は稲作の機械をそのまま

になり、今回の研修対象と

よう」が良いとのことです

麦栽培を成功させるため

うどん用の小麦の「しゅ

昔から作られていて、 麦等があります。特に麦は、

機械

験栽培をしていて、

品種は

現在飯山では2箇所で試

得補償交付金ができ、

物として、そば、

大豆対

れて意欲が沸いてきました。言われてがっかりしました

しました

耕作放棄地の再生を目的 振興及び農地の利用集積 きました。戦略作物の生産 育種部に研修視察に行って

試験場の技師に、最初に「飯

山で麦の栽培はどうか。

と

農地では麦の刈り取り作業

須坂市の県農業試験場

が盛んに行われていました。

今年から畑作物の所

麦栽培地

原心影響 (表現) 第6条

れると元にもどす一度農地以外の 許可を受けないで農地を のが困難のものにさ

県農業試験場の作物部、組合と須坂市にある長野

野市にある古川

再生営農

コンバ

イン、

乾燥機(

の清

清掃に大変手

間がかかると

うことでした。

培について学ぶために、

去る7

月 25 日

あに、 中 表の栽

は腐ってしまうこと、

めに刈り取り後の機械の

県知事は工事の中止命令、力が生じないだけでなく、転用した場合、権利等の効 できます 復等を命ずることが

ミツバチとヒペリカム

11. 7 No.189

食と農、 交じり合う仕掛けづく 都市と農村 ŋ Ŕ

をとおしてお伝えします 都市部の住民とのかかわり合いを深めていく活動を、地元農業委員が、いろいろな農業体験の企画をとお いろいろな農業体験の企画をとおして、 1 年

業体験が盛りだくさんです ズの2回目は、 よ夏まっさ 坪根登美子委員の取組み) 現場での

しみながら、おにぎりをいただき、直売所で山菜のお土産を買って帰られました。 日には大豆の種まきに10名ほどが参加し1反の畑を約1時間ほどでまき終わて、イチゴ畑 の食べ放題でもぎたてのイチゴを満喫。その後サツマイモの植え付けをしました。近くの 畑では5月に植えたソバやカボチャが大きく育っていて、収穫の時期が待ち遠しい様子で した。お昼は手作りの笹餅を持って長峰運動公園へ移動し、自然のおいしい空気のなかで いただきました。今回のおみやげはお馴染みの羽広山の農家へお邪魔し、あまくてみずみ

てよう (ふるさと 館で主催) には 12 組24名が参加。 6月4日に大豆 とサツマイモとト ウモロコシの種ま きをして気持ちの 良い汗を流しまし

ずしいアスパラガスを買って帰られました。

今年も大豆の種

まきに飯山応援団 (飯山大豆 100 粒 の会)来飯。5月

11日に畑の準備と

ネギとカボチャを

植え付け、お昼に

は北竜湖で菜の花

と山の芽吹きを楽





た。この日は大豆の豆がらで焼き芋を作りおいしくほおばりました。

トウモロコシは野生動物の大好物で、タヌキやカラスとの五感の知恵比べも大切です。 雨が降ってばかりで草の生長も早く、7月の草とりが間もなくやってきます。

まかぬ種には実はならぬ

の野菜料理が並ぶようになりました。キュウリ・ナス・トマトばっかりのフルコー

スが毎日続きます。 地元で取れる旬の食材を食することは 体に良いといわれ ています。同じ食材を工夫して料理することも食文化へとつながっていきます

今年の春は遅く作物の育ちもいまいちでしたが、 ようやく食卓の上にたくさん

南国の果物をま いてみました。果 たして、実がなる のでしょうか。

最近、飯山(積 雪地)でもできる のかな、と思って しまう野菜や果物 が直売所に並んで





いる事があります。昨年はショウガ、四角豆、アイスプラントなどに挑戦した農家もあり ました。

この夏、千曲川河川敷の荒廃農地の再生を目指して、市内の有志25名がパッションフルー ツの栽培に挑戦しています。有志で勉強会などを開いたり、現場での講習会も行い、河川 敷を含めて、飯山市内には 450 本の苗が植え付けられています。

6月下旬、ようやく花が咲きだして、60日くらいで収穫できるようになるそうです。 荒廃農地の再生と観光・特産品加工の目玉として、大きな期待を寄せられています。



農業委員の

の交代がありま

佐藤重雄さん(常盤地区) しく農業委員に選任されま 堀博美さん(木島地区) に代 が

6月に農協推薦による農業委員

23 農業委員会だより/11.7